

PRESS RELEASE

2025 年 4 月 9 日

株式会社 ispace

Redwire Corporation

**ispace-U.S.、米 Redwire 社と商業月面探査ミッションの
共同推進に関する覚書を締結**

コロラド州コロラドスプリングスで開催中の第 40 回 Space Symposium で覚書の締結式に参加した ispace-U.S. CEO エリザベス・クリスト（左）と Redwire Corporation, President of Civil and International Space マイク・ゴールド氏（右）

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード [9348](#)）は、当社米国法人である ispace technologies U.S., inc（以下 ispace-U.S.）が、米国現地時間 2025 年 4 月 8 日（火）、次世代の宇宙経済に向けた宇宙インフラ分野におけるリーダーである Redwire Corporation（NYSE：RDW）（以下 Redwire）との間で、アメリカ航空宇宙局（NASA）の商業月面輸送サービス（Commercial Lunar Payload Services、以下 CLPS）およびその他顧客向けの商業月面探査や科学ミッションを、共同で推進するための覚書を締結しましたのでお知らせします。本合意は、2025 年 4 月 7 日（月）より、コロラド州コロラドスプリングスで開催されている、米国最大規模の宇宙カンファレンス「第 40 回 Space Symposium」にて発表されました。

NASA の CLPS は、2028 年までの予算総額が 26 億米ドルのプログラムであり、納期・数量が未確定の契約方式（Indefinite delivery, Indefinite quantity、以下 IDIQ）です。NASA は次世代探査に役立つ科学技術を商業的に提供することで、月面経済の創出を支援するため CLPS を立ち上げました。Redwire 社は、CLPS の IDIQ 契約を有する主要請負業者 14 社のうちの一社であり、今後 ispace-U.S.と共に、ispace のランダーを活用した CLPS 契約の獲得を目指します。ispace-U.S.が開発を進める次世代ランダー「APEX1.0」は、ispace が行う民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」のミッション 1 およびミッション 2 で使用している RESILIENCE ランダーの開発・運用経験で得た教訓を活かし、輸送可能なペイロード容量を向上させています。APEX1.0 ランダーは、顧客のペイロードを月面または月周回軌道に輸送することが可能な、多目的プラットフォームを提供します。

今回、Redwire との戦略的な提携により、今後 ispace-U.S.と Redwire は、これまで培った経験や専門性、多くの技術を活かして、政府および商業顧客向けの将来的な月ミッションを遂行してまいります。

■ ispace-U.S. CEO エリザベス・クリストのコメント

「ispace-U.S.は月着陸船やリレー衛星の設計、開発、自社内での試験設備、商業月面探査ミッションの運用といった幅広いサービスを提供する米国の企業です。ispace-U.S.は日本法人である ispace が実施した月ミッションから引き継いだ豊富な経験と実績、米国内でのプレゼンス拡大を背景に、商業月面探査ミッションにおいて顧客に安心をもたらす独自のポジションを確立しており、将来のシスルナ経済圏の構築にも貢献していきます。」

■ Redwire Corporation, President of Civil and International Space マイク・ゴールド氏のコメント

「Redwire は、このたびの ispace-U.S.との提携により、今後予定している商業月面探査および科学ミッションをさらに推進し、月周回軌道上の重要なインフラを提供していけることを誇りに思います。Redwire の先進的なデジタルエンジニアリング、統合、試験、月面のサブシステムやペイロード技術と、ispace の実績ある月面着陸プラットフォームおよびミッション運用技術を組み合わせることで、今後、人類の月面さらにその先での活動を支援することが出来る、世界トップクラスのチームが誕生します。」

■ Redwire Corporation (<https://redwirespace.com/>)について

Redwire Corporation (NYSE:RDW) は、国家安全保障や民間、商業等幅広い分野にサービスを提供する世界的な宇宙インフラストラクチャーおよびイノベーション企業です。主な製品にはアビオニクスとセンサーの技術と生産能力、発電、構造とメカニズム、無線周波数（RF）システム、プラットフォーム、ペイロードとミッション、微小重力ペイロードが含まれます。数十年にわたり実証された伝統的な飛行経験を、アジャイルで革新的な文化と融合させていま

す。約 750 名の従業員は、米国およびヨーロッパにある 17 の拠点で従事し、人類のために宇宙で大胆な未来を築き、発見と科学の限界を押し広げ、より良い世界を創造することに全力を注いでいます。

■ ispace technologies, U.S., inc (<https://ispace-us.com/>)について

コロラド州デンバー郊外に位置する、株式会社 ispace の US 法人。地球から月への輸送サービスを政府及び民間顧客に提供する米国の月開発企業。月の資源活用に着目し、月、および地球と月の間において人類の生活圏、経済圏を構築することを目指している。ispace-U.S.は米国で設計・製造・打ち上げが行われる APEX1.0 ランダー開発の中心地であると同時に、北米における事業の拠点としての役割を担う。Team Draper の一員として、アメリカ航空宇宙局（NASA）の商業月面輸送サービス（Commercial Lunar Payload Services, CLPS）に採択され、NASA が後援する複数の科学ペイロードを月周回軌道及び月面へ輸送する予定。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 は 2025 年 1 月 15 日に打上げを完了し、最短 2025 年 6 月 6 日に、月面着陸へ再挑戦の予定です。ミッション 3 は 2026 年ⁱ、ミッション 4（旧ミッション 6）は 2027 年にⁱⁱ打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされている。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

ⁱ 2025 年 4 月時点の想定

ⁱⁱ 2025 年 4 月時点の想定

本件に関するお問い合わせ

ispace：広報 山本 PublicRelations@ispace-inc.com

Redwire：Tere Riley Tere.Riley@redwirespace.com